

がん相談支援センターにおける就労支援: 石川県および小松市民病院での取り組みについて ～社会保険労務士との協働を中心に～

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会
第4回情報提供・相談支援部会
平成26年12月1日(月)
国立がん研究センター中央病院

金沢医科大学 腫瘍内科学 / 金沢医科大学病院 集学的がん治療センター
社会福祉士 久村和穂

I. これまでの問題点

来月、手術を受けることになりましたが、うちの職場には**有給休暇はない**ので…。

(季節労働者)

正社員ではないので、**長期休暇はとれません**。欠勤が続けば、いずれ解雇になるんで…。

(週5日、7.5時間/日、10年以上勤務)

うちの会社には**介護休暇制度がない**から、何日も**仕事を休めない**。

(終末期患者の家族)

復職にあたって**勤務時間を減らすと、健康保険や厚生年金に加入できない**ので、将来が不安…。

(非正規職員)

- **労働法規**に関わることや企業の**労務管理の実情**が分からず、どのように状況を**アセスメント**し、助言していいのか分からない。
⇒相談にのることに**慎重**にならざるを得ない。

2



国民健康保険 小松市民病院 地域がん診療連携拠点病院
(病床数: 344床)

II. 石川県におけるがん患者就労相談事業の概要

- 2013年10月～県内**全て**のがん診療連携拠点病院で開始。
- 頻度・時間: **週1回**(4時間程度)
- 委託職種: **社会保険労務士**
 - ・ 石川県が**県社労士会**に協力依頼
 - ・ 県社労士会から各病院に**1～2名**を派遣
- 財源: がん診療連携拠点病院
機能強化事業費
- 契約: 各病院が**社労士と個別に契約**
- 報酬: ¥8,100+交通費¥500



II. 石川県におけるがん患者就労相談事業の概要

実施方法	
対象者	がん患者とその家族
利用方法	面談または電話による 無料相談
社労士の業務範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談に対する助言を行う ・ 年金の代理申請や会社側との直接交渉等は業務範囲外とする (ただし、患者の希望により院外で患者と個別契約することは可)
対応可能な相談内容 (例)	<ul style="list-style-type: none"> ① 雇用に関する問題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 解雇された、または、退職勧告がある ・ 病気を理由とした降格、賃金値下げ ・ 休職・復職できるか ② 社会保険に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 傷病手当金・失業手当を受給できるか ・ 退職後の医療保険をどうしたらいいか ③ 年金に関する問題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害年金を受給できるか ・ 退職後の年金の加入をどうするか ④ その他(会社でのコミュニケーションなど) <ul style="list-style-type: none"> ・ 病気のことをどう会社に伝えるか ・ 繙続雇用の希望をどう会社に伝えるか

III. 小松市民病院での取り組み

1. 相談事業の開始

- 県がQ&Aを作成、社労士にオリエンテーション

- SWとの打合せ(2回)

- 広報(チラシ、ポスター、自治体広報)

- 地域の連携病院→病院が担当

- 労働基準監督署
 - ハローワーク
 - 年金事務所
- } 社労士が担当



* 毎週木曜日 13:00～17:00
(2名の社労士が隔週で担当)

- 開始直後に研修会を開催

- 院内外の医師・看護師等約30名が参加

- 内容:

- ① TV番組で紹介された患者への退職勧奨に関するケース・スタディ
- ② 患者が利用できる社会保障制度の紹介



H25.10.17 第11回緩和医療懇話会
「医療従事者にも知ってもらいたいがん患者の仕事とお金」

III. 小松市民病院での取り組み

2. 1年間の相談実績(2013.10～2014.9)

III. 小松市民病院での取り組み

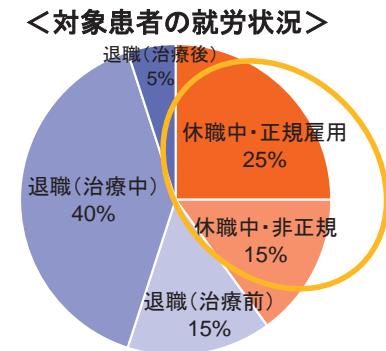
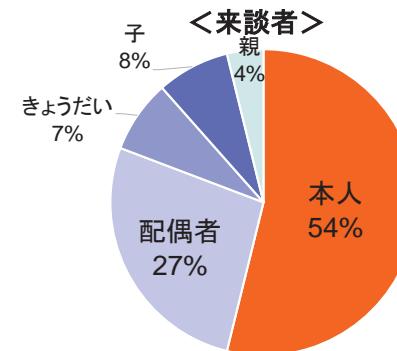
2. 1年間の相談実績(2013.10～2014.9)

① 患者・家族からの相談

- 症例数 : 20 ケース (男性:12、女性:8)

- 相談回数 : 33 回 *すべて面談相談

- 対象患者の年齢中央値(範囲) : 56歳 (47 - 62歳)



⇒4割が休職中、6割は退職者

6

III. 小松市民病院での取り組み

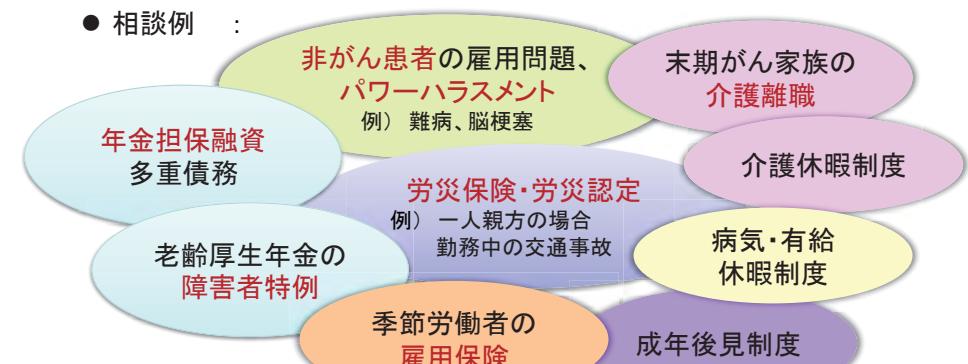
2. 1年間の相談実績(2013.10～2014.9)

② 相談員(SW、4名)からのコンサルテーション

- ケース数 : 42 ケース (うち、がん患者は11ケース)

- 実施回数 : 52 回

- 相談例 :



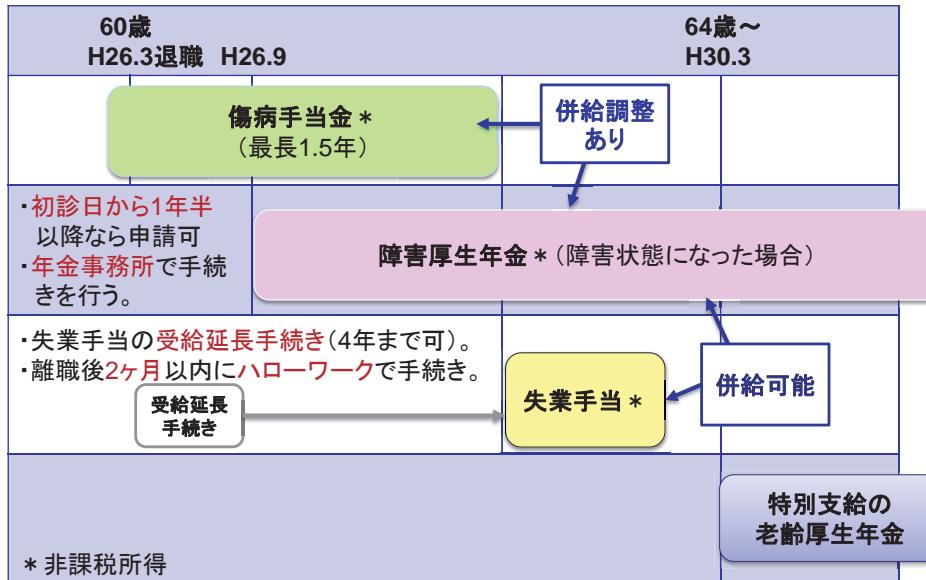
- 情報収集に費やしていた時間・労力・コストが削減され、より信頼できる具体的な情報提供が可能となった。

- 復職だけではなく、退職後の生活設計を含めた相談窓口になっている。

III. 小松市民病院での取り組み

3. 相談の実際

<本人への情報提供の実際: ②退職後に利用可能な社会保障制度>



13

III. 小松市民病院での取り組み

3. 相談の実際

(4) 妻と社労士が面談

(*がん相談支援センター相談員も同席)

<1回目>

- 本人に渡した資料を用いて、同様の**情報提供**

(妻からTEL)

「夫の仕事や様々な制度のことについて、私も話を聞いてみたい。」

「本人も会社に**継続雇用**の希望を伝えようと言っています。」

「仕事が**生き甲斐**なので…。」

→病状悪化、会社と交渉する機会のないまま定年退職。

<2回目> *緩和ケア病棟にて面談

- **退職金**の受け取りに関する**代理手続き**
- **遺族年金**
⇒上記について情報提供

「退職したことで、急に**生きる気力**を失ってしまったようで…。」

*本症例の報告について遺族よりご快諾をいただきました。

14

III. 小松市民病院での取り組み

4. 社会保険労務士との協働で得られたこと

- ① 就労に関する相談ニーズは**終末期の患者・家族**にもあり、復職だけでなく、**納得**のいく職業生活の終わり方や**退職後の生活設計**を含めて相談にのることができる。
- ② 労働法規や会社との交渉術等について、より**専門的な知識**が得られることで、相談員はより**積極的に就労支援**に取り組めるようになる。
- ③ 社労士との協働で得た知識・経験を、**がん以外**の患者の就労支援に**応用**できる。

IV. 今後の展開

1. 県社労士会との協働: 障害年金・成年後見無料相談会

- 小松市民病院(7/30, 10:00～15:00) : 20件
- 金沢大学附属病院(11/25, 10:00～15:00) : 15件



障害年金・成年後見無料相談会
H26.7.30 小松市民病院にて



IV. 今後の展開

1. 県社労士会との協働: 障害年金・成年後見無料相談会

- ・ 小松市民病院(7/30, 10:00~15:00) : 20件
- ・ 金沢大学附属病院(11/25, 10:00~15:00) : 15件



2. 実施施設が増加(5→8ヶ所)

- ★ 能登地域の県協力病院・2カ所(10月～)
- ★ 県運営委託のがん患者サロン・はなうめ(9月～)
* 社労士・SWにファイナンシャル・プランナーが加わる

3. 事例検討会の開始(11月～)

- ・ 就労支援に関するノウハウの蓄積

4. 就労支援事業に関するデータの集約

- ・ 県内拠点病院の共同調査プロジェクト(6月～)



「がんと暮らしの相談タイム」事例検討会
H26.11.17 がん患者サロン・はなうめにて

17

IV. 今後の展開

1. 県社労士会との協働: 障害年金・成年後見無料相談会

- ・ 小松市民病院(7/30, 10:00~15:00) : 20件
- ・ 金沢大学附属病院(11/25, 10:00~15:00) : 15件



2. 実施施設が増加(5→8ヶ所)

- ★ 能登地域の協力病院・2カ所(10月～)
- ★ 県運営委託のがん患者サロン・はなうめ(9月～)
* 社労士・SWにファイナンシャル・プランナーが加わる

3. 事例検討会の開始(11月～)

- ・ 就労支援に関するノウハウの蓄積

4. 就労支援事業に関するデータの集約

- がん患者が病院から家庭や職場へと生活の場を移す時、迷わないように道案内をする。

⇒看護師、県職員、社労士、SW、就労支援ナビゲーター、患者・家族が参加

18

静岡がんセンターでの就労支援の取り組み

がん相談支援センターにおける就労支援

～静岡県および静岡県立静岡がんセンターでの取り組みについて～



静岡県立静岡がんセンター
疾病管理センター よろず相談
医療ソーシャルワーカー 高田由香

- 平成23年 4月 就労支援システム施行
- 平成24年 2月 障害年金相談会 開始
- 平成25年 6月 就職支援モデル事業 開始
- 平成26年 2月 就職支援実践報告会
- 平成26年 4月 就職支援モデル事業(2年目)
- 平成26年 8月 公開講演会(院外周知)
- 平成26年11月 診療業務報告会(院内周知)
- 平成27年 2月 就職支援実践報告会(予定)

第2次 がん対策
推進基本計画

1

2

ファルマバレープロジェクト



恵まれた交通インフラや自然環境、健康関連産業の集積を背景に、世界レベルの高度医療・技術開発を目指して先端的な研究開発を促進し、医療からウェルネス産業にいたる先端健康産業の振興と集積を図る

3

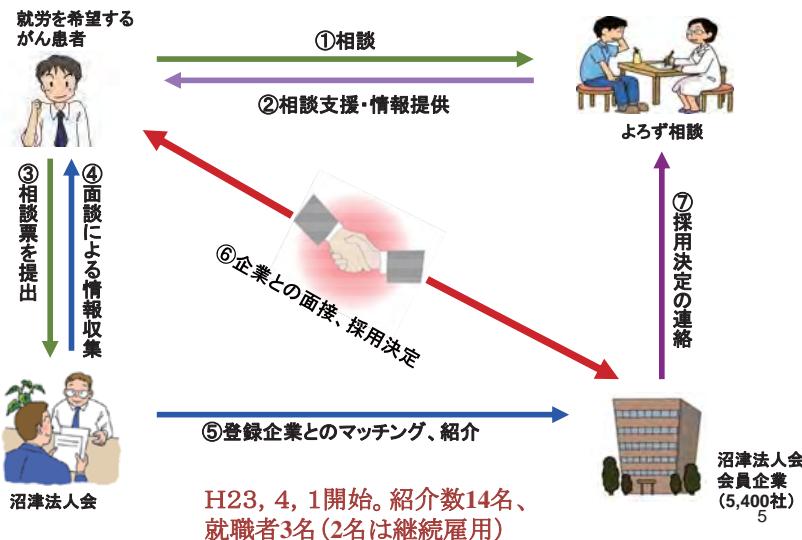
沼津法人会

- 3市(沼津・裾野・御殿場)3町(清水・長泉・小山)における法人の過半数を超える約5,400社余が会員として加入
- 1.異業種交流・親睦・研鑽の機会づくり
- 2.未来社会が明るく発展性のあることを願った税制改正の提言
- 3.地域社会に密着した社会貢献活動、税知識の普及など税の啓発活動

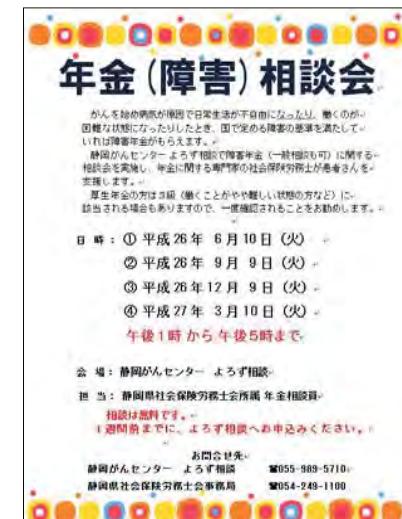
4

がん患者就労支援システム

～沼津法人会と静岡がんセンターの協同～



障害年金相談会の開催

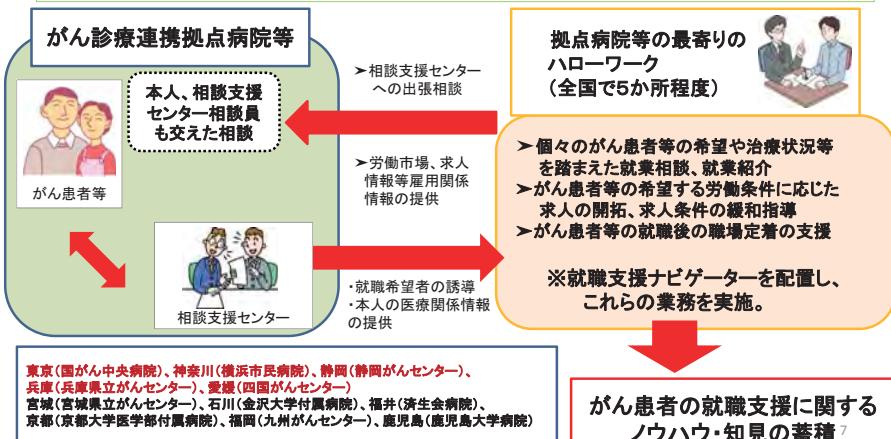


6

がん患者等に対する就職支援モデル事業

・がん、肝炎、糖尿病等の患者については、医療技術の進歩や医療提供体制の整備等により、がん患者の5年後生存率が50%以上となるなど、適切な治療のみならず、生きがいや生活の安定のための就労に関する支援が重要となってきている。

・このため、がん診療連携拠点病院等における就労に関する相談支援・情報提供モデル事業（健康局実施）と相まって、ハローワークががん診療連携拠点病院等の相談支援センターと連携し、離職を余儀なくされたがん患者等に対する就職支援のモデル事業を実施し、がん患者等の就職支援に関するノウハウ・知見の蓄積を図る。



ハローワーク就職相談の実際



- ・毎週火曜日、10:00～16:00
- ・各1時間の相談枠
- ・その場でインターネット検索も可能な体制



<がんセンター内の就労相談>
 実績:H25.6.25より開始
 出張回数:66回
 延べ相談件数:381件
 就職者数:21件 (H26.10月末現在)

就職支援実践報告会

日時:平成26年2月22日(土)13:00~16:00
場所:静岡県立静岡がんセンター 患者サロン「やまなみ」
共催:ハローワーク沼津(3名参加)
静岡がんセンター(4名参加)
参加者:患者・家族 11名(体験発表者2名を含む)
医療者等 12名(欠席者2名)
報道 5社(記者・カメラマン 計6名)



県民の日事業 公開講演会

平成26年8月9日(土)
13:30~16:00
参加者:74名
(県内59名、県外15名)



前半は東京労災病院治療就労両立支援センター支援両立部長:門山茂医師および静岡がんセンター:高田の講演

後半はシンポジウムとして沼津法人会:溝淵俊次氏、社会保険労務士:本間康典氏、就職支援ナビゲーター:柏木もと氏がコメントーターとして登壇

がん患者を受け入れる雇用者側の状況、生活を維持しながら治療と就活をする上の課題などディスカッション

11

8

患者の就職 病院が支援

県立静岡がんセンター

ハローワークと連携し相談・紹介

6人再就職 企業にも理解求める

平成28年(2014年)12月6日(木)

中日新聞(朝刊)

スポーツ・健康・医療 しづおか (12)

10

院内周知のとくみ

平成26年度 第6回診療業務報告会

- 日 時: 11/27(木) 18時~19時 しおさいホール
- ①『がんになっても働きたい
~ SCCにおける患者さんの就労支援~』
よろず相談 高田MSW
- ②『知っておきたい障害年金の基礎知識』
社会保険労務士 本間康典氏

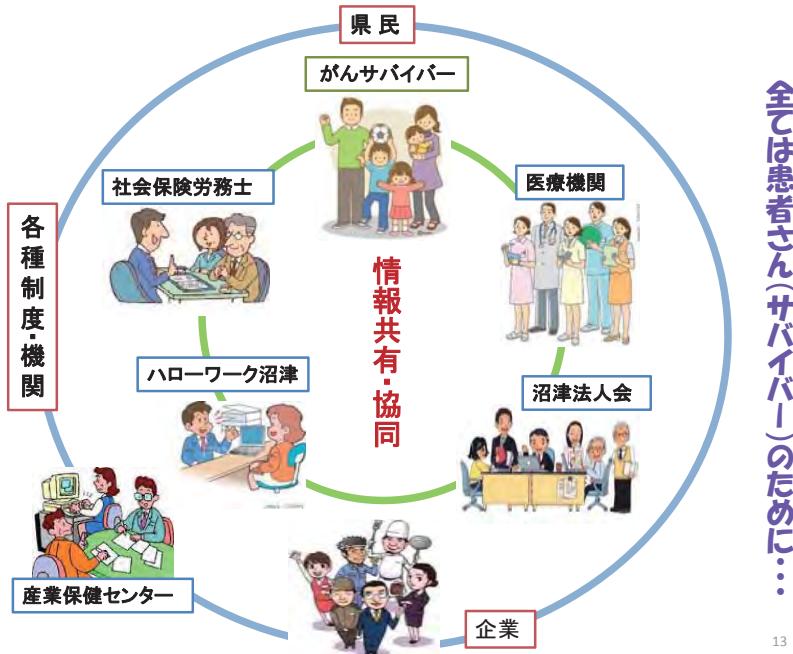
診療業務報告会とは・・・
①院内の設備、部屋の実接写真の紹介
②興味ある話題、講師を招請する勉強会
③趣味、娛樂の要素もあり交えていく
④ルーランに重要な情報を簡単に説明する
⑤ときに、病院の重要な詳細について説明する
主婦員を対象とした報告会です!

毎月第4木曜日は診療業務報告会の日です!

みなさんぜひご参加ください☆

参加者:41名

12



13

今後の取組・課題

- 地域産業保健センターとの連携模索
- 企業向け講演会の開催
- 利用者向け講演会
 - 実践報告会の開催
 - 「伝える」ことの勉強会
- モデル事業後の事業継続
- 「就労調査」の活用
- 成功事例の蓄積 など

14



山形県における 医療用ウイッグ購入費助成事業の 取り組みについて

山形県立中央病院
稻村みどり
平成26年12月1日

助成金額は、助成対象者1人につき、**1万円**又は医療用ウイッグ購入経費の**2分の1の額**のいずれか低い額とする。

助成回数は、助成対象者1人につき、**1回**限りとする。

5、助成対象となる医療用ウイッグは、次の全ての要件を満たすものとする。

(1) 平成26年4月1日以降に購入したものであること。

(2) 就労や社会参加等のために購入したものであること。

※外出のみを対象とするのではなく、在宅で来客等と面談するために
ウイッグが必要となる場合等についても、助成の対象とする。

(山形県 健康福祉部 健康長寿推進課 資料より)

山形県がん患者医療用ウイッグ購入費助成事業

1、目的

がんになっても、これまでどおり安心して暮らし続けられる社会を構築するため、
がん患者の治療と就労の両立、療養生活の質の向上に向け、がんの治療に伴
う外見の悩みに対して支援すること。

2、実施主体

市町村

3、経費の負担

県1/2、市町村1/2

4、事業内容

助成対象者：がんと診断され、抗がん剤による治療を行っていること。
抗がん剤の治療に伴う脱毛により、就労や社会参加等に支障がある又は支障が出る
恐れがあるため、ウイッグが必要になっていること。
年齢および性別による制限は設けない。

現状

5月に県からの通達を受けて、各市町村で7～10月に事業開始。
広報誌やHPで広報を行う。

当院では、初回化学療法開始時、副作用説明の際ウイッグ準備についての説明もし、助
成制度について情報提供を行っている。

事業開始してみての課題

- ①申請書様式の追加修正(助成金振込み用口座番号記載欄の追加)
 - ②添付書類の検討(抗がん剤薬品名が分かるものが必要)
 - ③申請場所の配慮(がんであることを他の人に知られたくない)
 - ④助成金額について：医療用ウイッグ購入費用は数万円～数十万円と高額
であり、県の助成金支給だけでは不十分。
 - ⑤助成回数について：就労している人は、より自然に見える物に買い替える場合が
ある。
- ①～③については市町村で検討し対応している。



5

現状

- * 「薬剤性脱毛ヘアサポート美容師の店」店舗ステッカーを掲示
- * 利用者の反応：元々の客の他、美容室や美容組合等のHPを見ての問い合わせがある。
- * 美容室側での配慮：状況に応じての個室対応、時間外対応、電話対応、必要に応じ病院や自宅に訪問して相談に応じる。
(病院担当の美容師を決めている。)

103店舗の認定美容室、119名の薬剤性サポート美容師

7

アピアランス相談支援員養成事業 ～薬剤性脱毛サポート美容師～

* 抗がん剤の副作用による、見た目(脱毛、肌荒れ、爪の着色等)の変化に戸惑う患者の精神的苦痛へのサポートについて、医療者だけでは限界を感じ、2012年山形県美容組合に協力を依頼

数か月後、山形県薬剤性脱毛サポート協議会発足(医師・美容師・患者の会・薬剤師ら)

2013年3月、第1回薬剤性脱毛サポート美容師資格認定研修会開催

2013年9月医療用ウイッグ購入費助成金給付を県に要望

6

<実際の美容室の一例>

- 1階と2階のある店舗で、相談者が来店した際は2階のフロアで対応し、他の来店者や必要のないスタッフの出入りもしないようにしている。(予約客数の調整)
- 何度も来店しなくてもよいように、その1日で済ませるようにする。
(体力低下面への配慮)
- ウイッグの調整のみでなく、敏感肌や血色不良となる場合が多い為、刺激の少ない化粧品や成分・メイクの工夫を伝えている。



美容師としてのスキルを生かしたトータルサポートで
生活の質の向上につなげたい

8

鹿児島県におけるがん相談支援センターの活動の可視化の取り組み

鹿児島大学病院 腫瘍センター
がん相談支援部門
田畠真由美、山口裕加、上野真一

□鹿児島の現状

- 県がん診療連携拠点病院(1)
- 地域がん診療連携拠点病院(8)
- △特定領域がん診療連携拠点病院(1施設)
- ▲県がん診療指定病院(13)

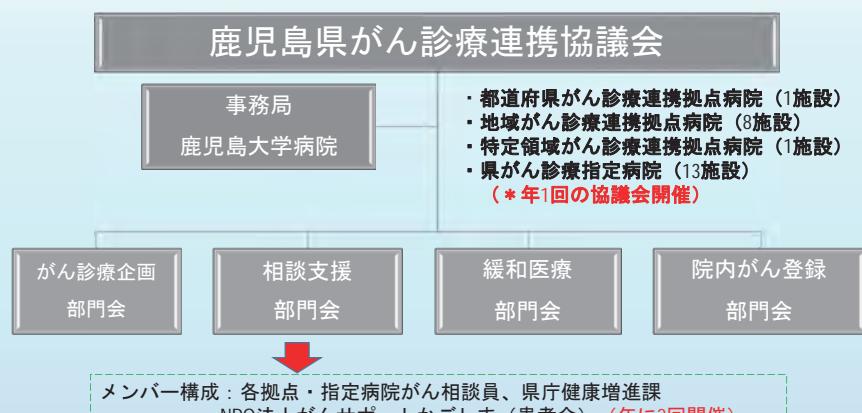


【がん相談支援上の問題】

- ◆過疎化・高齢化が進んでいる。
- ◆相談支援センターの役割や設置場所についての認知度が低い。
(H24年7月現在認知度: 35.4%)
- ◆28人の住む離島があるが、2ヵ所を除いて相談する場所がない
- ◆本土内でも拠点・指定病院がない2次医療圏がある。(曾於保健医療圏)
- ◆鹿児島市内に拠点・指定病院が集中している。

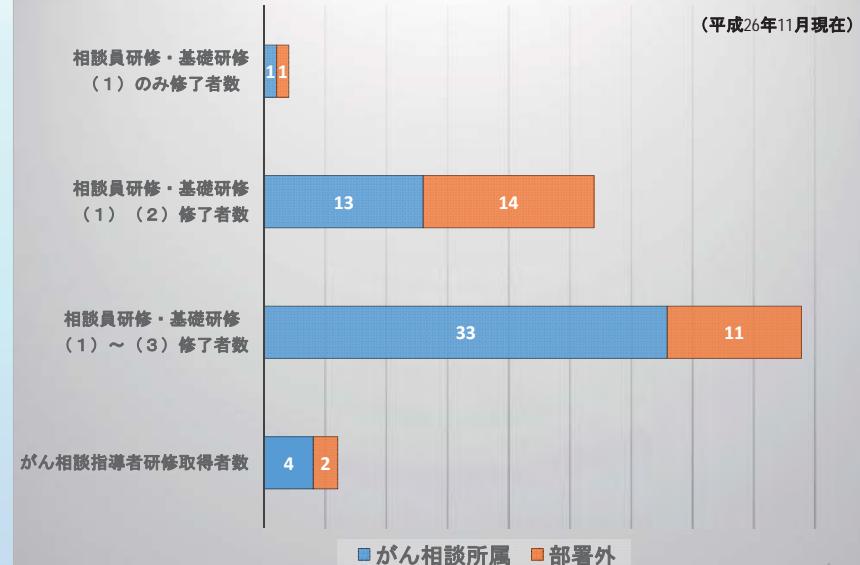
がん診療連携拠点病院
県がん診療指定病院
(H26年6月6日現在)

□相談支援部会の組織図



- *平成24年11月～相談支援部会を設置(研修・事例検討・議題)。
- *平成25年6月～定期的にがん診療・研修、院内がん登録部門と合同研修会を実施。
- *平成26年6月より緩和ケア部門会も参加。

鹿児島県内相談員研修受講状況



定期がん相談支援部門会

参加者・施設数



□相談支援部門会活動の経緯

★平成24年11月に相談支援部門会設置



- 相談員のスキルアップと部門会活動の促進
- 相談支援センターの院内・地域への周知・広報
- 相談員同士の連携促進



- ◆ 年に2回部門会を開催し、研修・事例検討・協議報告について取り組む
→ 事例検討を行うことで、相談員同士の連帯感を醸成する。
- ◆ 部会開催・企画については持ち回りで担当し、皆で作り上げていく意識を持ち取り組む（3回目の部門会から）
→ 企画・運営に参加することで主体的に取り組む姿勢を培う。

6

□これまでの取り組み

	全体研修会	事例検討	協議・報告等
平成24年度	第1回 (H24.11.9)	・肺がん患者が粒子線治療を医師に相談し、治療を拒否された患者への対応	【協議】 ・平成24年度のがん相談支援部門会活動について 【報告】 ・地域相談支援フォーラム（九州・沖縄ブロック）の概要について（実行委員会報告）
	第2回 (H25.2.8)	【部門会単独研修会】 「新しいがん治療のかたち」 （粒子線治療） 講師：メディボリス医学研究財団 菱川良夫氏	【協議】 ・地域相談支援フォーラム（九州・沖縄ブロック）の概要について（フォーラムの報告） ・平成25年度のがん相談支援部門会活動について 【報告】 ・国内・県内のピアソポーターの動きについて ・メーリングリストの活用について
平成25年度	第3回 (H25.6.1)	【合同研修会：がん相談支援部門企画】 「がん診療連携クリティカルパス研修会」 講師：熊本赤十字病院 血液腫瘍内科部長 吉田稔氏 講師：熊本大学病院 私のカルテセンター コーディネーター 里山弘子氏	・経済的な問題を抱えた相談者に対して、相談者としてどのように対応すべきか？ 【報告】 ・都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会報告 【その他】 ・国立がん研究センターがん対策情報センター 職員3名から自己紹介・挨拶 ・相談員サクセスの順位について ・県・県政広報番組への協力について ・R・F・Lジャパンがごしまについて
	第4回 (H26.2.21)	【合同研修会：がん診療企画部門企画】 「最新化学療法」 講師：熊本大学附属病院 がんセンター外来化学療法室長 野坂生輝氏	・がん相談支援センター問題を明らかにする（自院のがん相談支援センターについて等 事例に、グループワークを実施）
平成26年度	第5回 (H26.7.26)	【合同研修会：がん登録部門企画】 「愛媛県がん診療連携協議会の取り組み」 講師：独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 寺本典弘氏	【業務検討】 ・自院のがん相談支援センターの課題への取り組みについて報告・検討 【報告・連絡】 ・都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会報告 ・九州・沖縄ブロック相談支援フォーラムについて ・がん相談支援事業について ・がん医療を語ろう サロンについて ・R・F・Lジャパンがごしま報告

相談指導者研修企画の取り組み

課題 (PLAN)	実践 (DO)	評価 (CHECK)
①がん相談支援センターの周知・広報	<ul style="list-style-type: none"> ・院内職員への周知 ・院外（患者さん等）への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・各外来（医師・看護師）への相談支援センター紹介カードの配布 ・病棟カンファレンスや症例検討会に積極的に参加し、センターをPR ・院内M/Lでの紹介カードのPR ・医局会・外来会での医師・看護師への周知 ・各病棟研修会でがん相談員が相談対応していることをPR ・リレーフォーライフに参加し、相談支援センターのPR実施 ・がん告知、病状説明時への同席 ・がん相談支援センターの入り口に各種がん疾患パンフを設置 ・センターの案内ミニチラシを入院案内の中に掲載 ・常時、センターのドアを開放状態に。 ・直通電話の開設、ホームページへの掲載 ・院内掲示板へセンターの案内表示 ・「私の手帳」の説明会実施 ・患者サロンの各月の予定が入ったポスター作成及び掲示 ・月ごとのサロンの開催案内をリンクナースにメール配信し、必要時、印刷して入院患者へ紹介してもらう。
②患者サロンの充実		<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターや患者サロン案内を活用して紹介する病棟看護師が増えた。
③地域との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の接種回り（4・5月に52ヶ所） ・交流会の企画（7/16）次回12月 ・地区的介護支援専門員研修会で、センターのPRやセカンドオピニオンについて説明 ・「私の手帳」の説明会実施 ・病院所在地の市役所に向け、センターリーフレットを配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携がスムーズになった。 ・「看取り」をテーマにした研修会に医療・福祉より多数参加（約100名）。 ・「私の手帳」を使用したいと在宅医から申し出。
④他職種合同カンファレンスの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟カンファレンスや症例検討会に積極的に参加 ・がん相談支援センターと緩和ケアチームの週1回のカンファレンス及びミーティングの実施 ・情報共有のカンファレンス実施（自部署：毎日、他部署： 	

□活動の可視化

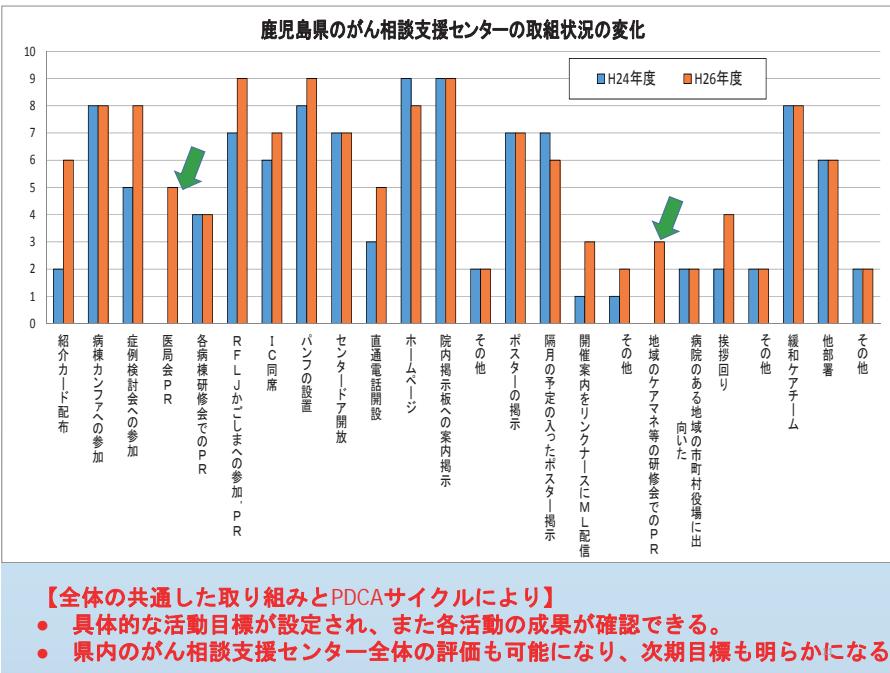
大項目	小項目											
	(1) 紹介カード配布	(2) 病棟カンファレンスへの参加	(3) 症例検討会への参加	(4) 医局会PR	(5) 各病棟研修会でのPR	(6) リレーフォーライフジャパンかごしまへの参加、PR	(7) IC同席*条件あり	(8) パンフレットの設置	(9) センタードア開放	(10) 直通電話開設	(11) ホームページ	(12) 院内掲示板へのセンター案内掲示
① センター周知	(13) その他()											
② サロンの周知・充実	(1) ポスターの掲示	(2) 各月の予定の入ったポスター掲示	(3) 開催案内をリンクナースにML配信	(4) その他()								
③ 地域との連携強化	(1) 地域のケアマネジャー等の研修会でのPR	(2) 病院のある地域の役所に出向いた	(3) 年度当初の挨拶回り	(4) その他()								
④ 他職種とのカンファレンスの実施	(1) センターと緩和ケアチームとのカンファレンス	(2) 他部署との情報共有カンファレンス(どこと?)	(3) その他()	9								

□活動に対するアンケート実施結果

施設名	□活動実施状況												□活動実施の評価					
	紹介カード配布	病棟カンファレンスへの参加	症例検討会への参加	各病棟研修会でのPR	ホスピタルマーケティング会議への参加	院内掲示板への案内掲示	セミナー開催	直通電話開設	ホームページ	パンフレットの設置	セントラル会議室の利用	その他	各職種との連携強化	情報共有カンファレンスの実施	その他	対応率	実施率	その他
A H26.4	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
C H26.4	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D H26.4	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
E H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
F H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
G H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
I H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
J H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
K H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
L H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
M H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
N H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
O H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
P H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Q H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
R H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
T H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
U H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
V H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
W H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
X H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Y H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Z H26.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(計21施設より回答)

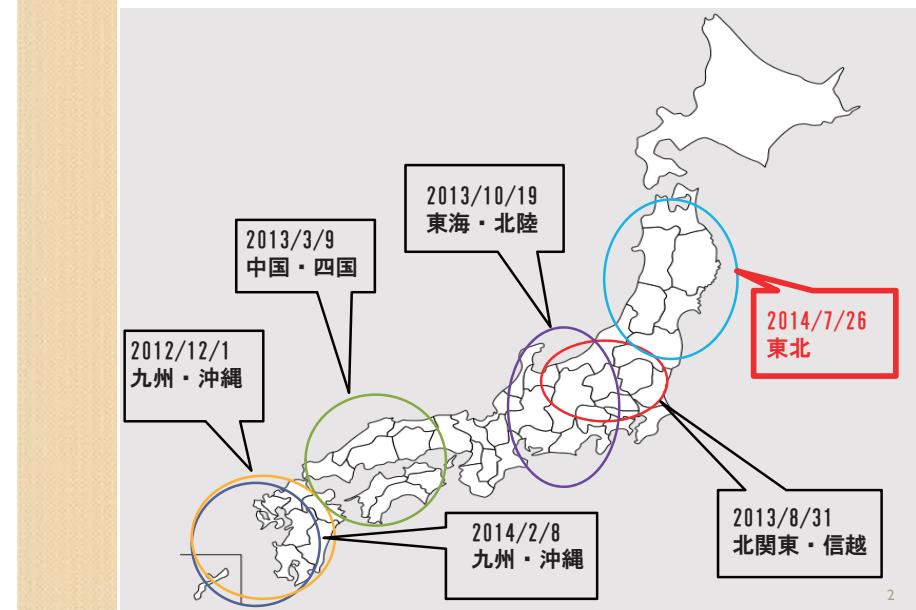
- 県全体での活動強化後2年が経過し病院間の差はあるものの、共通の目標により活動されてきている。
- 担当者が変わっても相談支援センターの機能は維持可能であった（質の担保）。
- さらに改善、取り組むべき重点項目が整理されつつある。



平成26年度 東北ブロック 地域相談支援フォーラム

2014.12.1
岩手医科大学附属病院
青木 慎也

これまでの地域相談支援フォーラム



実行委員会 事前打ち合わせ

- ・ 2/28 盛岡にて開催（29名参加）
青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
の各県から4～6名が実行委員として参加
- ・ テーマについて話し合い（出された意見）
院内外での認知度の向上
就労支援について
医療の空白地帯の支援
身寄りがない人の支援
子供が小さい場合の母親のがんについて
がんサロンの運営について
地域の患者会との連携
等々

その後は集まることはできず、メール等で意見交換



- ① 院内外での認知度の向上のため、心がけてきたこと
- ② いろいろな相談支援の空白を少なくしていく為に私たちができること

日時：2014年7月26日（土）
10:00～17:00
場所：宮城県仙台市
参加者：127名（実行委員27名、医師5名、
県担当者6名）



5

10:10～12:15 セッション1
「がん相談支援センターの様々な発展経緯」
院内の関係者から理解を得る、関連診療部門との信頼関係を構築する等、院内の足場を確立する過程で私たちが心がけてきたこと
話題提供3件+グループディスカッション

- ・病院の規模、相談室の状況、経験年数が様々なグループでディスカッションが行われた
- ・他施設での取り組みが理解できた。ヒントになった
- ・院内でのアピールが不足していたので、自らも働きかけていきたい
- ・病院全体での関わりが重要である
- ・顔をみて話すことが次につながるいい機会である

6

13:15～15:00 セッション2
「1施設を超えて患者さん・そのご家族を支えるためにできること」
対応力（専門性、体制面のキャパ等々）の空白、窓口の（地理的な）空白等、いろいろな「相談支援の空白」を少なくしていく為に、私達ができること
話題提供4件+ディスカッション

- ・他県の取り組みが参考になった。自らの県でも参考にしていきたい
- ・医療の空白はあっても相談の空白はなくしていきたい
- ・色々な空白があることを考えさせられた
- ・相談支援は一施設ではなく、地域で支えるネットワークが必要である
- ・広報の重要性を理解した

7

15:10～16:30 同郷仲間（県単位）で体験共有
ディスカッション、各グループより県毎に話あった内容を発表

- ・他県の取り組みを知り、自分の県としてやっていく方向が見えた
- ・他県の混合グループの後、県単位で集まると同郷感が一層増し、連携作りに役立った
- ・自分たちの県の強みも共有でき、励まされる思いがした
- ・質の向上に向けて取り組んで生きたい
- ・顔の見える連携は大切である

8

市民フォーラム 17：30～19：00
がん相談支援センターを地域の支援の輪につなげる
～地域のがん患者さんを支えるもうひとつの連携先～
(従来の病診連携の枠組のみでは対応しきれないがん療養者と
家族の不安の解消に向けて)
講演1：「がんを含む合併症を抱えた高齢患者の療養生活を支える
介護支援施設の視点」
講演2：「地域で医療ニーズが高いがん患者の療養生活を支える訪
問看護」
講演3：「地域でがん患者の在宅治療を支える診療所の視点」
パネルディスカッション

参加者：約200名

9

- ・在宅療養においてがん相談支援センターが軸になりチームで支援を行った事例を紹介
- ・一方で、相談支援センターはまだ市民にはわかりにくい場所に点在していて、「線として“つなげる”必要がある」との意見や「家族が拠点病院に入院していたが、主治医からは相談支援センターの紹介がなく、もっと早くつないでくれれば相談したいことが多くあった」との指摘もあった
- ・相談窓口が設置された病院内でもより効果的な連携の必要性が示唆された
- ・さらにはがん相談支援センターを含めた多職種・他機関連携を進めたいとの意見交換がなされた



10

NHK NEWS WEB 2014年(平成26年)7月27日 [13時11分]

東北 NEWS WEB | 東北 NEWS WEB TOPへ戻る | 文字サイズ: ■■■

ニュース詳細

がん相談支援センターの活用は

がん患者のケアのために国などが設置する「がん相談支援センター」をどのように活用していくかを考えるシンポジウムが、26日、仙台市で開かれ、センターの認知度を高める必要があるという見識が出ていました。

国立がん研究センターなどが仙台市青葉区の仙台国際センターで開いたシンポジウムには、がん患者の治療やケアに関わる看護師、介護士などおよそ200人が参加しました。

「がん相談支援センター」は、看護士ががんの治療や療養生活の相談を無料で受け付けた施設で、県内には、東北大大学病院など11か所に設置されています。

シンポジウムでは、まず、「がん相談支援センター」の認知度が低く、センターの存在ががん患者に知られていないという面倒がありました。これについて東田・角田地元扶助医療ステーションの会員章江氏は、「がんをあう高齢者と接する機会の多い介護士などがセンターの存在を知って、患者に利活用していくことが大切だ」と述べていました。

国立がん研究センターの高山智子さんは「センターが認知度を高めていくことで、がんの治療やケアの手数を減らしていくと思う」と話していました。

NHK東北NEWS WEB HPより (<http://www3.nhk.or.jp/tohoku-news/20140727/3235061.html>)

11

フォーラムを経験して

- ・各県から医師、行政の方に参加していただき、相談支援センターだけではできない様々な視点からの意見交換を行うことができた
- ・各県のそれぞれの事情があるが、様々な工夫や取り組みを行っており、自分の県での取り組みに参考になった
- ・東北は各県内での移動にも時間がかかり、なかなか東北全体で顔を合わせる機会も少なかったので、有意義な時間をすごすことができた



17

12

- ・東北各県の相談支援部会の活動にはバラツキがあるようだが、今回のフォーラムをきっかけにそれぞれの県が次の活動への第一歩を踏み出せたのではないか。
- ・本県はまだ相談支援部会が開催されていない状況である。しかし、今回のフォーラムを通し、県の担当者と意見交換をすることができ、その後も部会という形ではないが、何度か意見交換する機会を設けることができている。部会開催もある程度道筋はできているので、そう遠くない時期に開催できるものと思われる。
- ・相談の空白を作らないために今まで以上に横の連携を力をいれている。
- ・様々な機会を利用し、広報に努めていきたい。

地域相談支援ワークショップ[®] in 神奈川・東京・千葉 開催までの過程と実施結果について

神奈川県立がんセンター
緩和ケア・患者支援センター
相談支援・地域連携パス担当
清水奈緒美

地域相談支援ワークショップの企画運営の過程 (エントリー～採択まで)

時期	3月	4月	5月
事務局の動き	・公募のお知らせ	・企画の素案作成 ・企画のエントリー	・採択通知 ・国立がんセンターと打ち合わせ
相談支援部会 (神奈川)の動き		・エントリーを検討(ML) ・教育企画Gで企画案を検討(会議)	
東京・ 千葉の部会の 動き			

○企画委員や運営委員の組織化について

11月開催予定のため、企画委員会と運営委員会を分けて組織化する方向性で検討。

○開催の規模について

100名ほどの参加者を目標に調整を進める。

内容

- ・ 地域相談支援ワークショップ[®]in 神奈川・東京・千葉の企画運営の過程
- ・ 地域相談支援ワークショップ[®]in 神奈川・東京・千葉の実施結果

神奈川県がん診療連携協議会 相談支援部会

- ・ がん診療連携拠点病院(17施設)
神奈川県がん診療連携指定病院(7施設)の
がん相談支援センターに所属する実務者の会議

平成26年11月現在

平成24年度～
教育企画検討グループを組織化(7名)

病院の種類	職種と人数	
がん専門病院	MSW1人	看護師2人
大学病院	MSW1人	看護師1人
総合病院	MSW1人	看護師1人

神奈川県がん診療連携協議会 相談支援部会におけるがん相談員研修

平成25年度

がん相談対応評価表を活用した研修を開催
(責任者・指導者対象)

平成26年度

がん相談対応評価表を活用した研修会を計画
(スタッフ対象)

* 平成26年3月の相談支援部会会議で、2回／年
開催する計画をすでに決定していた。

地域相談支援ワークショップの企画運営の過程 (組織化～開催まで)

時期	6月	7月	8月	9月	10月	11月
事務局の動き	・企画・運営案の作成 ・会場予約	・プログラム、進行計画案の作成	・各都県部会と委員会組織化 ・神奈川県・東京都・千葉県への後援申請	・申し込み受付 ・教材作成 ・物品購入及び支払	・運営委員会準備 ・参加者への事前課題および事務連絡発信 ・ファシリテータ打ち合わせ開催 パネル演者司会ML 運営委員ML作成	研修会開催！(11/8)
相談支援部会(神奈川)の動き	・部会で企画の方法を検討 ・教育企画G会議	・教育企画G会議			・ファシリテータを中心的に担当 ・企画委員会 パネルディスカッションの演者・司会が企画を具体化	運営協力
東京・千葉の部会の動き			運営委員・パネルディスカッション演者の検討と決定		・運営委員会	運営協力

がん相談対応評価表を活用した研修 【事前課題】

教材として作成した相談の音声と、がん相談対応評価表を送付。

音声を聞き、評価表を付けた上で、研修会に参加していただく。

【研修会】

評価表についての講義と、評価表に基づいたグループディスカッションを行い、学びを深める。

ワークショップはこの研修計画活かし、
地域で共通の課題をテーマにしよう

地域相談支援ワークショップin 神奈川・東京・千葉 プログラム

(午前の部)講義・グループディスカッション

テーマ「がん専門相談員を育てる」を考えよう

がん相談対応評価表についての講義

がん相談対応評価表を活用したグループディスカッション

(午後の部)パネルディスカッション

テーマ「がん専門相談員として独居のがん患者を地域で支える」を考える

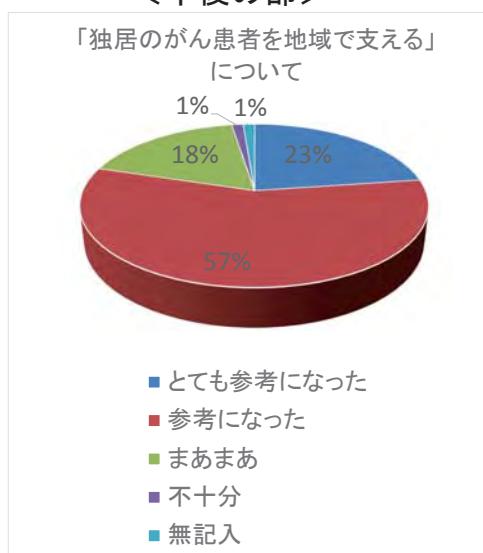
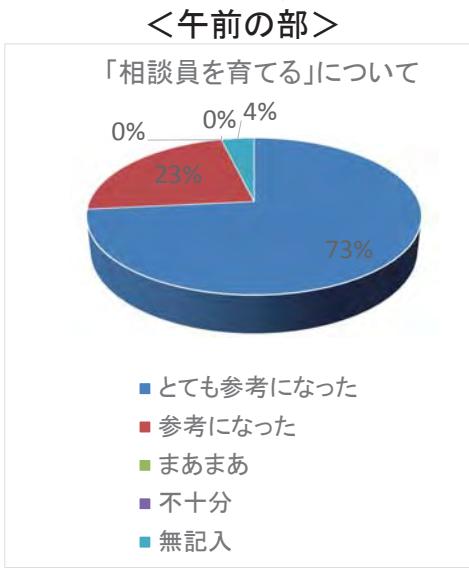
神奈川県からの報告

東京都からの報告

千葉県からの報告

開催結果

- 参加者114名 (MSW37人、看護師36人、その他6人)
- アンケート回収数79(回収率69.3%)



まとめ

- 地域相談支援ワークショップは、県内のみならず広域のがん専門相談員との交流が図れ、質向上へのモチベーション、相談支援のスキルの向上に役立った。
- ブロックで研修会を企画する際には、今回のように企画と運営を分ける方法、企画段階から共に検討する方法がある。
- 企画・運営の方法は、研修の目的や内容、開催までの期間によって、方法を選択することが望ましいと思われた。
- 事務局は作業が多く、時間的な負担もあったが、企画運営に中心的に関わることで学びも多く得られた。

アンケートの記載内容より

＜午前の部＞

- 「電話相談という顔の見えない中、ニーズをよみとる」という難しい業務に対し、多くの専門の方が真摯に向き合っていることが印象的だった。相談員自身の電話相談事例を教材にしたことも含め、本気の質担保に向けた取り組みに同じ思いで取り組んでいきたいと改めて思った。
- がん専門相談員の教育のステップを知ることができた。
- 職種が異なっても、相談員としての視点を評価表のスケールで共有できたことは貴重な体験だった。

＜午後の部＞

- これからますます増えていく単身者への介入方法について事例を通して発表があり、具体的で参考になった。
- ソーシャルワーカーの役割の重要性を感じた。
- 療養や治療の場の選択肢が増え、連携が重要になってくると強く感じた。

平成26年度 地域相談支援フォーラムin松本 開催報告



信州大学医学部附属病院
がん相談支援センター
仁科 直美
2014年12月1日

1

長野県の現状



がん診療連携拠点病院は10の二次医療圏うち6医療圏に8病院指定
年に1回県内拠点病院情報連携部会開催 がん相談実務者が参集するのはこの機会くらい

長野県は縦に長く、公共交通機関のアクセスが悪い（車での移動が主）それぞれの地域が山などで隔てられている

つまり…
山国で行き来がしにくい県

2

長野県の周辺の現状



- 長野県は8つの県に接している。

- 山脈に阻まれており、交通手段が限られる。

○松本市（信大病院）

甲府市：鉄道で約1時間

上越市：車で約2時間

前橋市：鉄道で約2時間半

新宿：鉄道で約3時間

3

長野県のがん相談員の現状

- 長野県内のがん相談員
 - 専従1名 × 8拠点病院=8名
 - 専任0.5名 × 8拠点病院=4名
 - 県指定がん相談支援センター=4名
 - 合計10数名

→やっとお互いの顔が見えた

→もっとネットワークを作りたい

→がん相談員研修会を開きたい

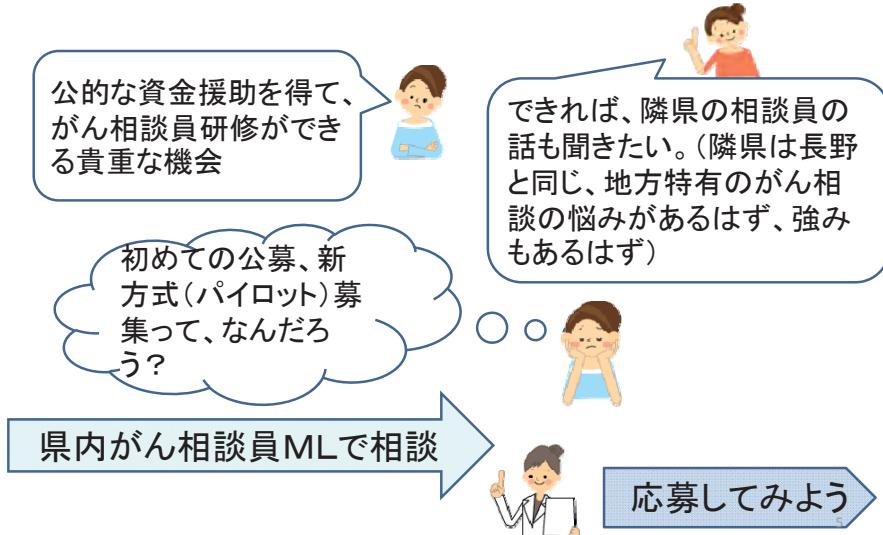
→やらねばならぬ



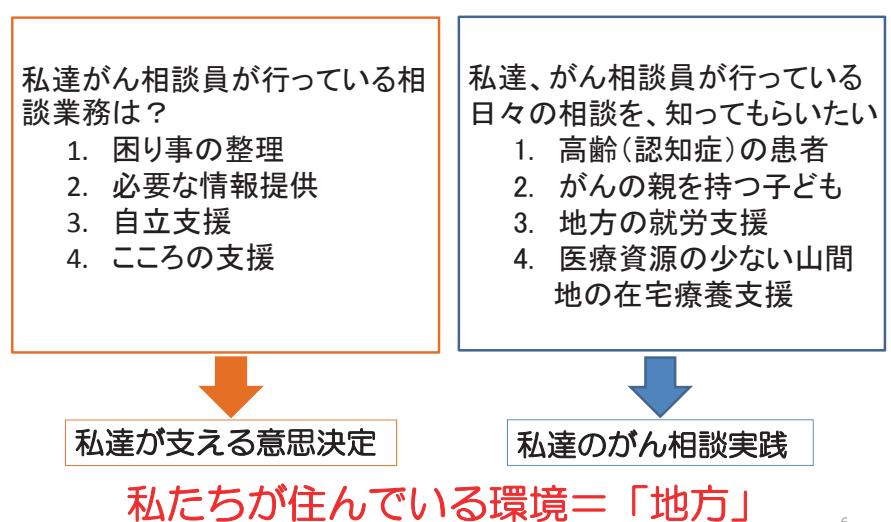
指導者研修の学びを活かしたい

4

4月：地域相談支援フォーラム新方式 (パイロット) 公募の告知

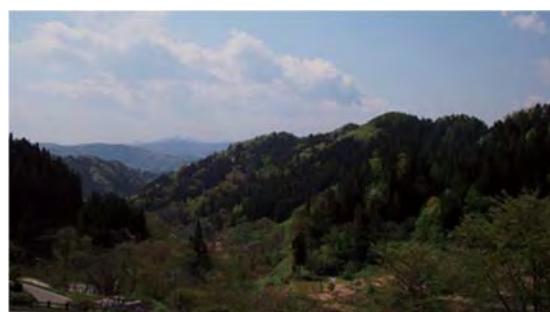


応募案の作成：指導者研修受講の3名と 情報連携部会長で素案を検討



6

テーマ
**地方ならではのがん患者意思決定
支援がここにある。**



4月30日
応募案送付

5月16日
採択されました。

運営委員会の立ち上げ

- 部会長が動き、協力を病院長に申し入れ
- 6月13日にはNCCの担当者も来院
- 県拠点の信大が事務局
- 開催場所は、どこからもまんべんなく遠く、会場費が無料の信大病院(松本市)に決定
- 長野県内の拠点病院から運営委員を1名選出してもらう
- 山梨県県拠点の相談員がすぐに応諾
- 新潟県にNCCから声かけてもらい7月から参加
- 岐阜県、群馬県にファシリの依頼電話

当事者意識を持ってもらえるような
働きかけ

7

運営委員会 (6月13日から)計7回

コアメンバー

フォーラム内容打ち合わせ

(1回～4回)

- テーマに沿ったプログラムの再検討
- 二部構成
 - 講演会・講師選出
 - 事例検討会
- 募集範囲
- がん相談員の実践を報告・共有
- ファシリテーター研修
- 内容ブラッシュアップ
- 最終打ち合わせ

事務局作業

- 予算組み
- 運営委員交通費の算出
 - 車の利用・算出方式
- 通知状・依頼状
 - 講師招聘状、後援依頼
 - ファシリテーター依頼
 - 事前研修会開催
- 事務部門の役割分担

運営委員全員で役割を分担

9

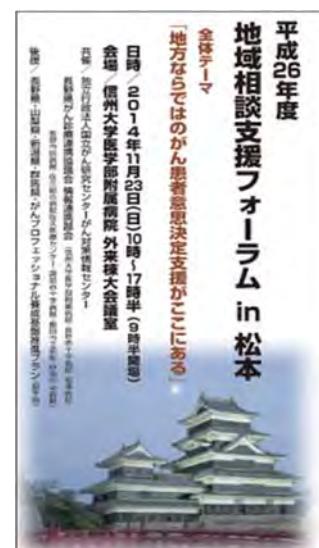
・メンバー

- 座長担当者
 - 実践報告者
 - 事例提供者
- 運営委員会のみでは決められない事
 - 実践報告の進め方
 - 検討事例のブラッシュアップ
 - 事例検討会の進め方
 - ファシリテーターマニュアル作成

前日11月22日に、地震がありまして・・・
実は、開催が危ぶまれました

- 次回開催地の決まり方
 - 地震の影響で 交通機関のため、
 - 連絡手段立の
- 
- 複数ヶ所の情報
白馬などで建物倒
た。この変更

11



当日の玄関前の看板

当日のプログラム・資料の表紙

12

参集者の内訳

		長野	山梨	新潟	群馬	富山	岐阜	埼玉	NCC
主催者	運営委員	11	1	1					2
	ファシリテーター	22	4	2	4				
	事務局	5							5
参加者	午前	34		2		2			
	全日	30	6	2	8	1	2		

参加応募数:87名(うち欠席者約10名…地震の影響?)

実行委員・ファシリ・NCC:43名

当日の総参加人数:約120名

13

大変だった点

- 運営委員会への遠方からの複数回参加
- 座長・発表者がファシリテーターも兼ねる
- 事務局が3つで役割分担が不明確
 - 信大、NCC、イベント業者
- 予算の見積もりの甘さ
 - イベント業者に依頼する仕事が減少
 - 会場設営から、片付けまで
- 交通費の設定の複雑さ
 - 事務作業の増加

初めて経験が多く大変でした

14

良かった点

- 全員参加型の手作りフォーラムで運営委員が結束
- ファシリテーターの顔が見えて、深い話合い
- 県境を越えたネットワーク作り
- 頼るところ(NCC)のある安心感
- 予算があることの恩恵(県外の運営委員、ファシリ)
- イベント業者が入ることのメリット(?)
- 行政のがん対策担当者と情報共有

共に苦楽を乗り越えて、達成感↑↑

15

当日の風景



25

16

貴重な体験と強い繋がりを頂けたこと、
大変感謝いたします。



平成26年度地域相談支援フォーラムin松本の開催概要は、
がん情報センターHP>がん相談支援センター>企画応募
型フォーラム>平成26年度(パイロット)にアップされてい
ます。

ご清聴ありがとうございました。

平成26年度 地域相談支援フォーラム in 長崎

全体テーマ：つなげよう！がん相談支援の輪

開催日時：2015年1月31日(土) 13:00～17:00

2月 1 日(日) 9:00～12:30

会場：長崎大学病院 臨床講義棟2階 第四講義室

〒852-8501 長崎県長崎市坂本1丁目7番1号

■プログラム■

1月31日(土) 13:00～17:00

「がん相談支援”他県の取り組みに学ぼう”（情報交換会）」

閉会挨拶

国立がん研究センター がん対策情報センター長 若尾文彦
長崎大学病院 副病院長

各県からの報告・グループワーク などを行う予定です

18:00～

全体懇親会（おもてなし）

場所：稻佐山観光ホテル

（当日は会場まで送迎バスを出す予定です。）

2月1日(日) 9:00～12:30

「離島・がん医療空白地域の現状を知ろう

～相談者を支えるネットワークづくり いま私たちができること～」

離島やがん医療空白地域の現状報告・グループワークなどを行う予定です。

閉会挨拶

長崎大学病院 がん診療センター長 芦澤和人

長崎県庁ホームページ

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/iryo/gan/medical-system/150503.html>

共催：長崎県がん診療連携協議会 相談支援ワーキンググループ

独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

後援（予定）：福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、長崎県（順不同）

平成26年度 地域相談支援ワークショップ in 島根

がん患者の くらしを支える縁結び

～がんになつても安心して働き暮らせる地域であるために～
がん患者さんの就労について、私たちが『できること』を考えます。

平成27年2月14日(土)

13:00～16:30
〔受付 12:15～〕

参加費無料
定員250名
事前申込必要

会 場

松江テルサ 1階 テルサホール

島根県松江市朝日町478-18 松江駅北口より徒歩1分

対 象

がん患者さんの就労について関心のあるかた

（がん患者・ご家族・企業経営者・労務担当者・社会保険労務士・行政関係者・医療従事者など）

お申込
方法

FAX、電話あるいはEメール gansapo@med.shimane-u.ac.jp

【参加申込締切 H27.1.30(金)】

プログラム

■基調講演

国立がん研究センターがん対策情報センター
がんサバイバーシップ支援研究部長 高橋 都 先生

■島根県就労アンケート結果報告

■シンポジウム 「就労を支えるためにできること」

がん患者さんをはじめ、関係機関が集まり、それぞれの立場から
現状と課題を提示し、今後の取り組みを考えます

〔お問い合わせ先〕

島根大学医学部附属病院
がん患者・家族サポートセンター

URL <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/gansapo/>

TEL/FAX (0853)20-2545

「地域相談支援フォーラム IN 近畿」のご案内

共催:

- ・近畿ブロック6府県(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県)がん診療連携協議会 相談支援関連部会(代表:大阪府)
- ・国立がん研究センターがん対策情報センター

趣旨:

がん診療連携拠点病院、がん診療(中核)病院の相談支援センター相談員が、当事者団体どのように「協働」して、新たな社会資源を構築するのか、また、当事者団体と相談支援センター間をお互いに補完し合う「連携」とはどのようなものなのかを、他府県と情報交換しながら、本課題について模索検討したい。

構成:

1. がん診療連携協議会長、患者支援団体代表者による基調講演
2. 当事者団体(患者会)代表によるパネルディスカッション
3. 相談員によるグループワーク
地域の枠を超えて相談員が共に考える場を設け、
課題を模索する

プログラム

日時:平成28年1月23日(土) 場所:検討中

1. 基調講演 (がん診療連携協議会長、患者支援団体代表者)

「がん診療連携拠点病院と当事者団体とのより良い『協働』と『連携』のために」

2. パネルディスカッション(近畿地域の当事者団体 3団体代表者)

「当事者団体が、がん相談支援センターに期待する協働と連携とは?」

3. グループワーク (近畿地域のがん相談員)

テーマ1

「当事者団体とがん相談支援センターはどのように『協働』し『連携』していくべきなのか ~日々の悩みや困りごと、および工夫や解決策について共有する~」

テーマ2

「府・県内のがん相談支援センターが当事者団体と『協働』・『連携』する際に、今後すべきことは何か?」

九州・沖縄相談支援フォーラムin鹿児島

【目的】

- ◆ 相談支援センターを利用される患者さんのニーズを把握し相談員のスキルアップを目指す。
- ◆ がん相談支援センターと地域の支援者との連携強化を図り、がんになっても住み慣れた地域で生活できる環境を提供する。

【開催日時】

- ◆ 平成27年11月27日(土) 9:30~17:00

【開催場所】

- ◆ 鹿児島県医師会館 (鹿児島市中央町8-1)

【プログラム】

一午前

- (1) 九州各県のがん相談支援センターの取り組み活動状況報告
- (2) 「聞く・聴く・訊く」をテーマとした講演会(案)

一午後

- (3) 「聞く・聴く・訊く」をテーマにグループワーク
- (4) 九州・沖縄相談員サロン・今語りたいこと、困っていることを話そう!

【共催】

鹿児島県がん診療連携協議会、鹿児島大学病院、国立病院機構鹿児島医療センター、鹿児島市立病院、昭和会今給黎総合病院、県立薩南病院、済生会川内病院、国立病院機構南九州病院、県民健康プラザ鹿屋医療センター、県立大島病院、博愛会相良病院、鹿児島共済会南風病院、鹿児島厚生連病院、慈愛会今村病院、鹿児島市医師会病院、聖医会サザンリージョン病院、川内市医師会立市民病院、出水郡医師会広域医療センター、出水総合医療センター、霧島市立医師会医療センター、鹿児島県立北薩病院、鹿児島島愛心会大隅病院、義順顕彰会田上病院、国立病院機構指宿医療センター、県庁健康増進課、国立がん情報センター

【後援予定】

佐賀県、長崎県、福岡県、大分県、熊本県、宮崎県、沖縄県(順不同)

「がん相談支援センターを地域の輪につなげる新企画」



博多どんたく港祭り



- 全国のがん相談支援センターの参加を呼び掛ける。
- そろいの法被や横断幕・のぼりを作成する。
- 博多大丸パーセジュ広場での説明会
- 博多どんたくを皮切りに全国の祭りにバトンを渡して、「がん相談支援センター」のPRを行う。

平成27年度

「がん相談支援センターを地域の輪につなげる新企画」

三重県がん相談支援部会

- プログラム**
- ①がん相談支援センターに関する講演(取り組み・役割)
 - ②テーマに添った話し合い(ワールドカフェ)
- 県内地域を3ブロックに分け、それぞれのブロックで開催(年間3回)

- 目的**
- がん相談支援センターが、施設間、職種間の橋渡し的な役割を担うことによって、より有効な患者・家族の支援体制の輪が構築できる
 - がん患者を支えるすべての医療・福祉関係者が、がん相談支援センターの存在や活動内容を理解することによって、患者・家族をがん相談支援センターにつなげることができる

- 対象**
- がん患者・家族の生活を支えているすべての多職種**
(がん相談員、医師、看護師、薬剤師、心理士、栄養士、訪問看護師、ケアマネージャー、ボランティア、行政、社会保険労務士等)

開催時期

平成27年秋頃